

石高新聞

R 6 年
1 月 9 日 行号
発 第 7 7 号

全国大会 準優勝

第55回全国高校選抜ホッケー大会

石動女子



↑SO戦での松井主将の得点に喜び合う選手たち



丹生にSO戦惜敗

12月27日（水）東京都の大井ホッケー競技場で第55回全国高校選抜ホッケー大会の女子決勝が行われた。石動高校は福井県の丹生高校と対戦し、第1クォーターで先制するも、第2クォーターで同点に追いつかれた。SO戦までもつれた熱戦は2対4で惜しくも敗れたが、昨年にも続く準優勝を飾った。

先制点嬉しかった

第1クォーターに先制点を決めた吉田伶さん（34H）は、「丹生相手に先制点は初めて嬉しかった。試合中にチーム全体に明るい声掛けをできたが、失点したときに気持ちの切り替えができなかった」と振り返った。3年間のホッケーを振り返って、「全部の試合が楽しく、嬉しかったわけではなかったが、最高の仲間や最高の相手と試合ができて良かった」と笑顔を見せた。主将の松井杏さん（34H）は、「自分たちのプレーで相手にプレッシャーをかけることを意識して試合に臨んだ。後輩は良い選手ばかりなので今回の経験を生かし強いチームをつくってほしい」と話した。

今までで1番の試合

女子ホッケー部の西永監督は、「同点でSO戦負けは去年と同じで悔しいが、

先制点を入れられたことは良かった」と評価した。今後のチームについては、「3年生が引き継いだものを繋いでほしい。全員で攻撃して全員で守るホッケーを意識してプレーして欲しい」と期待を込めた。保護者代表の松井さんは、「丹生高校とは今年4回目の対戦で今までで1番の試合だった。負けはしたが丹生相手に初めて先制点をとれた。相手に走り負けず唯一先制点をとり追い詰め、両チームが優勝に価する戦いだと感じた」と話した。3年生に向けて、「それぞれの道でホッケーを続けていく。3年間経験したものを大切に頑張ってほしい」とエールを送った。



→全国準優勝の賞状を受け取る松井主将